

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (295)

どうしてエウがユーに？

夕食後、タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

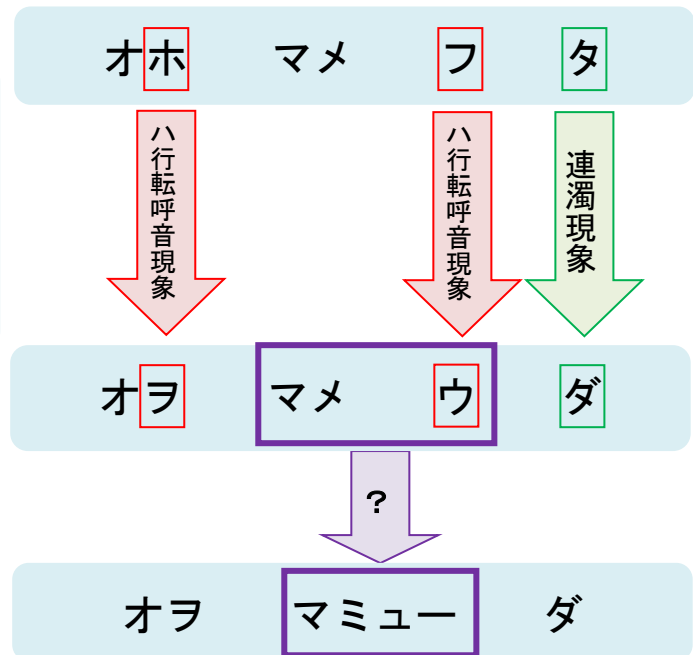
「ハニウがハニューになるのは、イウがユーになるのだからわかるのですが、イウではなくてエウなのに、マメウがマミューになるのって、どうしてなのかしら。」

「そうか。イウがユーになるのは、胡瓜のキューリとか、埴生のハニューとかの例があるからわかるけれど、マミューはマメウだとすればエウだから、マミョーになるはずだね。」

「そうなのよ。大豆生田さんなのでしょう。もとは、オホ・マメ・フ・タで、それがオヲマメウダになるのは、ハ行転呼音現象と連濁現象で説明がつかず。わからないのは、メウがミューになるところ。ミウならミューになるのでしょうか……。」

「気づかなかった。オオマミュウダというのは、日本語のミュという音韻のまれな実例なのだと覚え込んでいたけれど、音声上は説明のしにくいふしぎな実例なのだね。」

「今日」が「ケフ(kefu)」→「ケウ(keu)」→「キョー(kyo)」になるように、「eu」の発音は「yo」に変化する。この法則だと本来は「マメフ(mamefu)」も「マメウ(mameu)」→「マミョー(mamyō)」になるはずだね。



【編集部注】**八行転呼音現象** 平安時代になって語頭以外のハ行音がワ行音に発音されるようになったこと。
連濁現象 二語が複合して一語になるとき、下にくる語の初めの清音が濁音に変わること。